



ひらく

学校を開き、生徒の未来を拓く

□ 読書のすすめ

「今振り返って、私にとり、子供時代の読書とは何だったのでしょ。何よりも、それは私に楽しみを与えてくれました。そして、その後に来る、青年期の読書のための基礎を作ってくれました。それはある時には私に根っこを与え、ある時には翼をくれました。この根っこと翼は、私が外に、内に、橋をかけ、自分の世界を少しずつ広げて育っていくときに、大きな助けとなってくれました。」

第26回IBBYニューデリー大会(1998年)の基調講演で、上皇后美智子様は子供時代の読書についてこのように語られています。

瑞穂市では「読書のまちみずほ」を掲げ、小中学校の教育活動での読書を推奨しています。本校では本年度より再び、10分間の朝読書に取り組み始めました。学校中がシーンと静まり、皆が思い思いの本を読む朝のスタートはよいものです。大人も読書を楽しもうと考え、教職員も一緒にその時間は読書をしています。また、校舎のいろいろな場所に教職員お勧めの本も紹介しています。学校にお越しの際は、ぜひ手に取ってご覧ください。

読書は教養や知識を身につけたり、語彙力や文章力を高めたりすることができます。また読書による疑似体験を通して想像力が鍛えられます。そして何より、人生が豊かになると考えています。



□ 登下校の姿が少し乱れていませんか…?

最近、「生徒の登校する姿が悪い。危ない。」という、地域からのお叱りのお電話を2件いただきました。具体的には次の場所です。

1 宮田の横断歩道



昨年度の1月に横断歩道が設置されました。朝夕の登下校時に交通量が多く、危ないとの指摘があり、自治会の働きかけによって設置が実現されたものです。しかし、横断歩道を通ることなく、→のように直進する生徒が多いそうです。

5m程度遠回りして横断歩道が使えないのは、朝、急いでいるからなのでしょうか…

2 穂積巢南線「古橋西協」信号交差点から東にある交差点2カ所

南小学校近辺に住んでいる生徒の通学路は、「古橋西協」交差点を横断します。この交差点を通学路に定めている理由は、信号機があるからです。

しかし、右地図「○」の交差点2カ所を横断して通学する生徒が複数いるようです。穂積巢南線を使い東西へ進む車の交通量が大変多く、信号もないため危険です。一般の方も「○」の交差点を横断されるので、気持ちは分からなくもないのですが…



通学路は安全に登下校するために、学校だけでなく警察や地域の方とも協議して決定します。個々の事情を考えると、この道の方が近かったり、便利だったりすることもあるかもしれません。ですが、大切な命です。ぜひご家庭でも話題にしてください。